kosei
生かされ、生きるチカラ。

自分の命の尊さに気づくと義母との確執が消え去った。

浜田教会　藤本浩子さん

藤本さんは、そりのあわない義母との確執と持病の腎臓病にどのように向き合い、乗り越えていけばいいのか思い悩んでいた。そんな折り、風邪をこじらせて肺に水がたまり、酸素吸入器によってかろうじて命をつなぎ止めている状態に陥る。死をも覚悟した病床で、義母に対して冷たい態度をとり続けてきた愚かな自分の姿が思い起こされ、後悔の念に苛まれる。そして、義母と一緒に暮らし、親孝行をすることを誓った。人工透析後に足がつると、同居した義母がやさしく摩ってくれるなど良好な関係を築き始める。以前、悩みを聞いてくれた人に、「透析によって血液が浄化され、あなたは生かされている。同じように心も浄化して、お義母さんを受け入れられるといいね」と言われたことが心に沁み入る。「生かされている」ことに気づき自分の命の尊さを感じることができれば、出会う相手も、きっと仏さまに思えるから――。藤本さんはいま、病気を宝に変え、義母とほんとうの親子になれた喜びをかみしめている。

あなたも私も、みな仏

四月八日は、花まつりです。暖かな春の日が注ぐなか、花御堂にご安置された誕生仏に甘茶を灌いで礼拝し、釈尊の誕生をお祝いします。そうした機会に「仏さまのようになれるよう、精進いたします」と誓いを新たにする人も多いことでしょう。

ただ、そのとき心のどこかに「自分と仏さまとの隔たりは大きく、あくまでも遠い目標に過ぎない」という思いはないでしょうか。言葉を換えれば、「凡夫である自分と仏は違うものだ」と思いこんで自分は仏になれないと決めつけているのですが、そうではないようです。

白隠禅師の『座禅和讃』に、「衆生本来仏なり　水と氷の如くにて　水を離れて氷なく　衆生の外に仏なし」という一節があります。生仏一如、つまり衆生と仏は本質において一つであり、衆生以外に仏はないということです。

笑顔で人とあいさつを交わすと心が和んだり、人の苦悩を知れば胸が痛み、人の喜ぶ顔を見ると嬉しくなるのも、私たちが生仏一如、凡聖不二の身にあずかる人間だからでしょう。

仏とは、つまり自分が仏であることに気づいた人のことで、それは、自らの尊さに気づくこと、真の自分を知る、ということでもあります。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615